

## ネイチャーゲーム活動のエコツーリズム分野での展開

### 意外と広いエコツーリズムの範囲と活用できるネイチャーゲーム手法

山梨県ネイチャーゲーム協会 高山 弘

環境教育の一環として自然体験活動が広がりを見せるなか、もう一方で注目をあびている分野にエコツーリズムがあります。日本では、1990年頃に環境庁（省）も関わって研究活動が始まり、2002年に大手旅行代理店や野外活動団体などが中心となって日本エコツーリズム協会を設立しました。

本来エコツーリズムとは、貴重な自然の保護と地元住民の経済と文化を両立させようという取り組みですが、日本では、自然環境や歴史文化を対象とした体験・学習型観光（エコツアー）のありかたと定義されました。また、2004年6月には、環境省が全国に3タイプ13地域のモデル地域が指定され（表1）、私たちの周りでも様々なエコツアーが展開されています。

〈 表 1 〉

タイプ1 豊かな自然の中での取り組み

：知床、白神、小笠原、屋久島

タイプ2 多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み

：裏磐梯、富士山北麓、六甲、佐世保

タイプ3 里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み

：田尻、飯能名栗、飯田、湖西、南紀熊野

小笠原・屋久島などの本格的なエコツアーの現場でも、ネイチャーゲームが導入されていたり、ガイドのスキルの一つとして指導員資格を取っている方もいます。また、私たちが地域で行っている行事の中にも、エコツーリズムにあたるものがあります。特に、タイプ3の「里地里山の身近な自然・・・」の指定地域（埼玉県／飯能・名栗地区など）で行われている自然観察や生活体験の活動は、私たちが「おばあちゃんの知恵袋」や「いのちのつながり」などをテーマに行って来たネイチャーゲームプログラムそのものです。

そこで、2006年度に山梨で行った2つの活動について、検証してみました。

#### 《事例1》

8月26・27日、初めての親子宿泊行事として、「いのちのつながり」をテーマに21名が参加し、静岡県の西伊豆で「臨海学校」を開催しました。お昼過ぎには西伊豆黄金崎に到着して、昼食と磯遊び、室岩洞という石切場跡の洞窟では、頭上を飛ぶコウモリの観察をしました。宿泊先のやまびこ荘のグラウンドでは、さっそく「こうもりとが」を行いました。

夜には、漁船での「海のナイトサファリ」を体験しました。集魚灯に集まる様々なプランクトンや稚魚、それを食べるアジやトビウオやシーラが舟の周りを飛び交い、目の前で食う食われるの世界が繰り広げられました。そしてそれらを、手網ですくって水槽に入れて観察し、海の生態系のお話を聞きました。



2日目の朝は、昨夜の体験をもとに「ネイチャーループ」を行い、「いのちのつながり」のおさらいをしました。その後、スノーケリング教室で昼間の海の様子・多くの魚たち生態を体感し、帰路に着きました。

#### 《事例2》

10月15日の「全国一斉ネイチャーゲームの日」に、コモアしおつ（上野原町）で、秋のネイチャーゲーム体験会を開きました。

23名の親子が集まり、「いのちのつながり」をテーマに、「木の鼓動」や「キツネ・ウサギ・葉」で植物や動物の生態を体感したあと、「ネイチャーループ」で大きな自然界の輪を作り、周辺の里山の自然を題材に、いのちのつながりについてのお話をしました。



また、木の実・種を集めて「自然界の種まきの工夫」についても観察。そして、日頃食べている種（果物・米）などの実食もしました。

《事例1》は、「遠地で宿泊」の形態をとっているため、まさにエコツーリズムと言えるかと思います。そのプランの中でも、ネイチャーゲームの行事と言うことで、フローラーニングを活用し、「(実)体験」「ネイチャーゲーム」「わかちあい・ふりかえり」を組み合わせ、効果的な親子臨海学校となりました。

また《事例2》では、ほとんどが近くから集まった子供たちで半日だけの行事なのですが、深い印象の自然が無い分、ネイチャーゲームで自然への関心と理解を深め、「いのちのつながり」について考えました。また後半では、実際に木の実を手にして種の飛ぶ様子を観察したり、食体験をしました。グリーンツーリズムや食育にもあたる、ミニ・ツアーでした。

前記の日本エコツーリズム協会では、田畑や森の「グリーンツーリズム」や海の「ブルーツーリズム」、「食育」「田舎暮らし」など、ありとあらゆる自然・文化の体験活動を「エコツーリズム」の範囲として考えています。また、若年層のLOHAS思考や団塊世代の退職などの社会情勢の中、多くの人達が、「余暇活動」の分野としてのエコツーリズムに、参加者や運営者として関わって行くものと思われます。

そうしたなか、エコツーリズムにおけるネイチャーゲームの活用は、検証事例でも示す通り、大変有効であると考えられます。まず、①自然体験などの行程のなかで、楽しむ要素・ポイントを加えることが出来る。②参加者間での感動の「わかちあい」や、環境教育としての意義付けの機会（場）を作ることが出来る。③プログラム（計画）作りに、フローラーニングの考え方が有効で、楽しく効果的な体験活動が組める。などの、効果が考えられます。また、養成講座などでの行われる事業・組織運営の手法や安全管理についての学習・知識も、体験活動を企画するためには欠かせないものです。

私たちが、地域の会などでネイチャーゲーム行事をするにあたっては、あえてエコツアーリズムを意識する必要はありません。しかし、拡大しつつある分野であること、ネイチャーゲームが活用できるの実践の分野であることを意識し、地域での事例や情報について、注目しておく必要があるように思います。また、自ら優良なエコツアーに参加することも、非常に良い、スキルアップの機会になることでしょう。

事例に関わるキーワード 自然教室 地域活動 余暇活動 エコツアーリズム